

議長定例記者会見 会見録

日時：令和2年12月24日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

- 2020年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」を発表します
- 令和2年度「みえ現場 de 県議会」～新型コロナウイルスが及ぼす県内経済への影響について～ を開催します

2 質疑項目

- 2020年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」の発表について
- 2020年を振り返って
- 選挙区及び定数に関する在り方調査会について
- 令和2年度「みえ現場 de 県議会」～新型コロナウイルスが及ぼす県内経済への影響について～ の開催について
- Go To キャンペーンへの国の対応について
- 首相の来県について
- 新型コロナウイルス関連情報の提供について

1 発表事項

- 2020年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」を発表します
(議長)おはようございます。ただ今から12月の議長定例記者会見を開催いたします。本日は2つ発表事項がございます。

まず1つ目、2020年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」を発表させていただきます。お手元の資料、発表事項1をご覧ください。「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」は、県議会の活動内容を広く発信することで、県民の皆さんに県議会への関心を持っていただくとともに、参加意識を高めていただけるように、県議会のホームページやe-モニター等を活用して、毎年選定を行っているところでございます。最初に、今回投票いただきました県民の皆さん、議会傍聴者の皆さん、そしてe-モニターの皆さん、本当にありがとうございました。感謝を申し上げます。また、報道関係の皆さんにはPR等大変ご協力をいただきましたこと、ありがとうございました。まずもってお礼申し上げます。

選定結果は、発表事項1の1ページに掲載の10項目でございます。今回の投票結果でございますけれども、3ページをご覧ください。「ホームページ閲覧者と県議会傍聴者」、そして「e-モニター」、そして「議員」の得票数などを参

考に、副議長と相談の上で10項目を選定いたしております。一番左の列の「●」、これは選定したベスト10の10項目を示しております。左から3列目の「選考基準」は、左下にも書いてございますけれども、①は、「ホームページ閲覧者と県議会傍聴者」、「e-モニター」、そして「議員」の3つの投票結果のすべてで、上位10位以内に入ったものでございます。②は、どれか2つを投票結果で上位10位以内に入ったものでございます。①に該当する項目が8件、②に該当する項目が2件ございまして、ちょうど今回は10件となりましたので、この10件を選ばせていただきました。

今回の投票結果を見ますと、No. 4の「新型コロナウイルスへの対応」と、No. 18の「新型コロナウイルス感染症に関する対応マニュアル検討プロジェクト会議の設置」についての得票がきわだって多い結果でございましたので、やはり今年の最大の関心事、新型コロナウイルス感染症にかかることが今年の最大の関心事だったのではないかなと、この結果からも思わせていただいているところでございます。しかしながら一方で、No. 15の「選挙区及び定数に関する在り方調査会の報告」につきましても、議員の得票率は高いにも関わらず、e-モニターの得票率は低かったために、我々と県民の皆さんとの認知度の差があるのかなと感じさせていただいております。選挙区及び定数につきましても、今後、議会で議論していきますが、次期の選挙に向けて、県民の皆さんに関心を高めていただけるようにも努めていくことが必要だなあと、この結果を見て感じさせていただいております。発表事項の1つ目は以上でございます。

○令和2年度「みえ現場 de 県議会」～新型コロナウイルスが及ぼす県内経済への影響について～ の開催について

(議長) 2つ目でございますけれども、令和2年度「みえ現場 de 県議会」～新型コロナウイルスが及ぼす県内経済の影響について～ の開催につきまして発表いたします。具体的な内容につきましては、広聴広報会議座長である服部副議長から説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。副議長、よろしくお願いいたします。

(副議長) はい。それでは私のほうから、令和2年度「みえ現場 de 県議会」の開催についてご説明します。お手元の資料、発表事項2をご覧ください。まず、「1 開催趣旨」でございます。新型コロナウイルス感染拡大により人やモノの動きは世界中で停滞し、三重県においても幅広い業種で落ち込みが見られるなど地域経済は非常に厳しい状況を迎えている中、私たちは今後、警戒を緩めることなく暮らしと経済を再生し、活性化していくことが求められています。そこで今回、「新型コロナウイルスが及ぼす県内経済への影響について」をテー

マに、コロナ禍で経済的影響を受けた方々と意見交換を行う「みえ現場 de 県議会」を開催し、今後の議会での議論に反映させていきたいと考えております。

「日時」につきましては、来年1月26日（火）、13時30分から16時、「場所」は、公益財団法人 三重北勢地域地場産業振興センター「じばさん三重」6階のホールです。このホールの収容人数は約250人です。今回、できるだけ密にならないよう広い会場を確保いたしました。

次に、「4 参加者」でございます。経済面で大きな影響を受けたと思われる「製造業」、「観光・運輸関連」、「飲食サービス・小売り」、「学術・文化」の6人の方々にお願いすることといたしました。意見交換させていただく三重県議会議員は、正副議長、広聴広報会議委員、そしてテーマに関わりのある「戦略企画雇用経済常任委員会」の委員長、計13人でございます。

資料の裏面をご覧ください。「5 傍聴」でございます。新型コロナウイルス感染症対策としまして、今回、傍聴定員を40人とさせていただきます。「内容」につきましては、当日は私が進行役をさせていただきます。主催は「三重県議会広聴広報会議」でございます。「その他」でございますが、新型コロナウイルス感染予防のため、密とならない広い会場での開催、マスクの着用、入室時の手指消毒、傍聴者の名前・電話番号の記入、意見交換時のマイクの消毒など、できる限り対策を取らせていただきたいと思いますと考えております。報道機関の皆さまにおかれましては、当日の取材等につきましてどうぞよろしくお願いを申し上げます。私からは説明は以上でございます。

（議長）はい、ありがとうございます。それでは本日の発表事項は以上でございます。よろしく申し上げます。

2 質疑応答

○2020年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」の発表について

（質問）ではまず幹事社からお尋ねいたします。まず、活動ベスト10の関係ですけれども、結局、投票総数は何人だったということですか。全員で。

（議長）754人ですね。

（質問）括弧内が前年の投票者数で784ということで、30人ほど減ってしまったという認識でよろしいですかね。

（議長）はい。

（質問）具体的な目標は掲げておられませんでしたと思いますが、できれば前

回と同じぐらいかそれを上回るという目標でいらっしゃいましたっけ。

(議長) はい。

(質問) 若干減少してしまった理由および受け止めはいかがでしょうか。

(議長) ホームページのほうから投票いただいた、また傍聴者の投票のところは幾分か増えているんですね。e-モニターの投票いただいた方々が、これ相当減っているんですけども、これ、言い訳に捉えられるかわかりませんが、e-モニターの登録者、登録されてる方の母数が今年減っておりまして、登録者の母数からの割合にすると今年のほうが若干、登録者で投票された方の割合が去年を若干上回っておりまして。総数としては少し減っておるんですけども、最終的に私どもの評価というか捉え方としては、去年並みか去年を若干上回るぐらいの結果ではないのかなというふうに捉えさせていただいてるんですが、実は。

(質問) 減っているけど、上回る結果だったと捉えていると。

(議長) その e-モニターの、その元の登録された方の数が減っているんで、総数は減ってるんですけども、割合からすると、上回っているまではいかないか分かりませんが、最低前年並みぐらいにはいつていると捉えています。

(質問) ただいづれにしても、その e-モニターの登録者数ですね、そちらのほうの要因でこの投票者数が増減してしまうというのも、ちょっと県議会としての思いとしてはこれ、前年並みか、拡大させていきたい訳ですよ。

(議長) はい。

(質問) となると、言い訳なのか理由なのかはともかくとして、ここの投票者数をもっと増やしていくためにはどんな課題があって、どうしていくべきなのかというふうに考えられていますか。

(議長) まだそういうところは、今回の結果に基づく検証というのは、まだ申し訳ないけどこれからですけども。確かに今おっしゃられたように、e-モニターによって、この e-モニターの登録者数によってというところがあるので、その辺を議会としてPRしながら、e-モニターの登録者数を増やしていけるのかどうかというところですけども、e-モニターは議会のためだけに登録い

ただいとるわけではないので、その辺またちょっと参考にさせていただきながら、検証もさせていかなければいけませんので、考え合わせながら、できるだけこれからも多くの方に投票いただけるように、検証を含めてやっていきたいというふうに思います。

（質問）あと結果ですけれども、極めて、新型コロナに関する話題が、投票が多かったということですが、議長としても、これらの項目の中で特に印象的だったことであつたりとか、強調されたいことというのは、項目としては何かございますか。

（議長）私として選ぶならということによろしいですか。

（質問）はい。

（議長）この中から。

（質問）特に印象的だったことを。

（議長）もうこれ、結果が出ましたんで。結果出るまでは言えませんでしたけれども、結果が出ましたんで、私がこの中から選ぶとするならば、実は番号で言うと13番の「防災、減災、国土強靱化対策に係る意見書を提出」というところです。これ初めて、市議会議長会さんと、町村議会議長会さんと一緒に共通する要望、思いを、国のほうへ届けに行くっていうことを試みてみましたんで、初めてのことでしたんで、これを私としては、選ぶならば私としての一番とさせていただきたいなというふうに思います。

（質問）その理由としては、市町の議会と県議会が、すべて、この要望書を提出するのは全国の都道府県でも2県ぐらいだと聞いているんですけど。

（議長）そうなんですか。私調べてない。そうですか。

（質問）それは議長ご自身として、市町を含めた提出というところに尽力されたということ踏まえてということですか。

（議長）もちろん私も連携して取り組もうということで、市や町のほうの議長会の役員の方々に働きかけておったんですけれどもこれは私だけじゃなしに、市や町村議会議長会さんのほうからも、せっかく要望活動するならば、一応ち

よっと一緒についていうようなどこからともなくそういうことになって参りまして、このような形にできました。

(質問) 副議長の、お答えいただけるのであれば、この項目の中でどうですか。

(副議長) 私のほうは、これからの選挙区及び定数に関する在り方調査会、これに対して、今後、我々も努力をしていかなきゃいけないという状況でございますので、これが一番印象に残ったといいますか、そういうような状況でございます。以上です。

〇2020年を振り返って

(質問) 今年最後の記者会見ということになりますね、今日は。議長としての一年の振り返りであったりとか。今、ご用意されてますか。

(議長) 今年を振り返ってということで、今年は、本当にこのコロナ禍の中で、過ぎていく年なんだなということで率直に思わせていただいております。そして、大変多くの方々が罹患をされまして、お見舞い申し上げますし、また、入院されてみえる方々もおいででございます。1日も早い回復をお祈りいたしますし、また亡くなられた方も、全国でも県内でもおいででございますので、心から哀悼の意も表させていただきたいというふうに思います。そしてあわせまして、医療の現場であるとか、福祉の現場であるとか大変神経を使っていたきながら、国民県民のために、ご努力をいただいている皆さまに、またそして感染防止に必死の思いで、昼夜を問わずご努力いただいております関係者の方々には本当に頭の下がる思いで、今このように振り返ってということで、お問いかけいただいた機会に、敬意を表して感謝を申し上げたいというふうに思います。

私議長として、5月に就任させていただいて以来、議長として振り返ってみますと、本当にこの、とにかく一生懸命、副議長に支えていただきながら、とにかく一生懸命務めさせていただいているうちに、この令和2年度の定例会も過ぎていきましたし、今年も終わっていくんだなというふうに、早いもんだなというふうに感じさせていただいてるところでございますけれども。

少し今年の振り返りの印象に残ったことをそえさせていただきますと、まずは今までにない議会運営を経験させていただいた。というのは、新型コロナウイルスに関連したことで、執行部が出席できないという、出席を控えさせていただくということになりまして、一般質問を延期いたしましたし、またそれに連なる予算決算常任委員会も、延期させていただくという事態もございました。こういう今まで経験したことのないようなこともございました。さらにさかの

ばらせていただきますと、4月、5月、8月には、コロナの対策の補正予算を1日も早く事業化して県民の皆さま方に届けなければいけないということもあって、緊急会議を開催して迅速な議会なりの対応をさせていただきましたし、本当にこの議会運営において今までにないような経験をさせていただいたなという年でした。

それと、その中で私たち県議会としても、県議会ができる限りこの感染症が拡大する中であっても、継続できるような体制を取らなければいけないということで、「三重県議会新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」をまとめると同時に、その中でオンラインの会議ができるような条例改正、規則改正も含めて、環境を整えることができましたので、これが実現できたことは意義深いことであるなというふうにも振り返って思っております。

それともう一つ挙げさせていただきますと、先ほど副議長が挙げられましたけれども、「選挙区及び定数に関する在り方調査会」、これの金井座長をはじめです。委員の皆さま方が熱心にご協議をいただいて、報告書をまとめていただきました。今後、私たちがそれを土台にさせていただいて、定数及び選挙区のことにつきまして議論を進めていくわけですが、しっかりとそれを踏まえてやっていかなければいけないなというふうに今、振り返って思わせていただいているところでございます。

なおあわせて、この際に申し上げますけど年が変わりますと、いよいよすぐ1月15日から、新たな年の会期がスタートすることになりますけれども、来年は三重とこわか国体・三重とこわか大会の年でもございますので、ぜひこのコロナ禍の中の1年でございましたけれども、来年こそ明るく勢いのある年になるように、県民の皆さまとともに進んでいきたいなというふうに思っております。以上です。

(質問) 副議長も、もし振り返りがあれば。

(副議長) 私のほうですか。今まだ、コロナの状況が終息もしておりませんし、今後、来年から始まる本会議におきましても、実際に非常に厳しい状況がこの年末、そして年始に三重県も到来するんじゃないかというふうな心配をしております。我々就任をさせていただいた時は、コロナの真っ最中というふうな形で、一番最初の走りだったわけですが、これから半年、そして7ヶ月の間に非常に第3波までできております。これからしっかりと県民の皆さんと共に、コロナに対しての対策をしっかりと我々も打ち出していかなきゃいけないというふうに考えておりますので、その点、また来年、しっかりと努力させていただきたいと思っております。以上です。

—第二県政記者クラブの方も含めてお願いします—

○2020年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」の発表について
(質問) 各社さん発表以外も含めまして質問はありますか。第二さん含めて。

(質問) 発表事項の1。

(議長) はい。

(質問) 先にこれ、こういう項目を県民に示してるから、ある意味特出しがで
きなかつたんでしょけど、12月4日に一般質問延会になったというやつが
割と議会史の中では大きいと思うんですけど、それをやっぱり特出しできな
かつたっていうのは時間的な問題ですか。

(議長) 確かに大きなことではございますので、少し副議長と話をさせていただ
いたこともあったんですけども、この「新型コロナウイルスへの対応」という、
選ばれとる項目があるんですけども、このことに含まれることであるなとい
うふうに判断をさせていただいて、特にそのことを特出しさせていただくこ
とはございませんでした。

(質問) 来年正副変わられるわけですけど、5月以降は。だけど、申し送り事
項等で、場合によってはそういう緊急に起こることもあって、それが非常に大
きな関心事であっても、先にこういう形で項目出していると、載らない可能性が
あるじゃないですか。その辺のところは例えば正副議長のご判断で、これは入
れようと。そういうふうな、ある程度柔軟性っていうのは今後ありえないです
か。

(議長) いや、ありえないことはないと思っております、私たち正副、私た
ちの時点でも本当にこれはお示しするべきもんやということであれば、柔軟に
対応することもあるんだというふうな思いしております。

(質問) 思いで、今後何かそういう形で、申し送り事項の中に、突発時につい
てはそれぞれの正副議長判断を入れる項目があってもいいんじゃないかなみた
いなことは。

(議長) 私はそう思ってますけども、改めて、申し送りの時にどうかっていう
お問いかけでございますので、これまでの先輩の正副議長さん方とか、また今

の服部副議長とか、その辺、改めてちょっと話しながら申し送る必要があるかどうか、またちょっと検証も含めて考えたいと思います。

（質問）当然ながら傍聴者が少ないのはこれはこれでしょうがなくて、固定した人数、多分ずっと歴代動いてきてて、この辺の何か、今回の結果をもとに、検証は後でされるとおっしゃいましたけど何か改善策みたいなのは、アイデアはありますか。

（議長）ちょっと今改善策と言われましては申し訳ないんですけども、発表させていただいたところでございますので、その辺も今後考えてみたいというふうに思います。

（質問）e-モニターの母数が減ったのは何か、内々で話されたときにこんなことじゃないとか原因みたいなものがあるんですか。

（議長）ちょっと私ね、そこまで捉えてないんで申し訳ないんですけども、事務局で補足していただけたところありますか。局長すいませんが。

（事務局長）いいでしょうか。e-モニターの数につきましては、投票結果が出ましたときに数字が下がっておりますので、結果を見てからなんですけども、所管する広聴広報課のほうに確認をいたしました。それで、登録者数去年は1,071人であったのが、今年は951人ということです。確かe-モニター、3年で3分の1ずつ変わっていく制度だったかと思いますが、それが120人減ってるということです。e-モニターのカテゴリーの投票率を調べますと、去年は59.4%であったのが今年は60.5%の方からご回答いただいているということで、ほぼ前年並みの回答であったかとは受けとめております。

（質問）分析はこれからだろうけど、今自宅に結構いることが多くて、パソコンとか、そういう関係、SNSを使ってる方が非常に多くなってるじゃないですか。で、通常で考えるとe-モニターが減るっていうのはあんまり考えられないじゃないですか。むしろ増えていいかなという感じがするけど、逆に減ってるのは何でやろうっていうふうなことは内々の話には無かったんですか。

（議長）その辺もですね、ちょっとまだこれからそのようなやりとりをさせていただくことになっていくんだろうというふうに思ってます。ちょっと今、これからです。はい。

(質問) 全体の投票、全部のツールを含めて若干減ってるんですけど、そういうことを含めて、このやっぱり項目出しと、中身これ、書いてはありますけど、割と一読した時に普通の県民で傍聴にも来てないとあまり関心持たれてない方たちがやるにはですね、議員の方とか我々はある程度分かりますけど、なかなか分かりにくい面があったりして、その辺はもう少し工夫とかなんかそういうのはお感じにならないですか。

(議長) そんなことは、今ご指摘いただくようなことは必要かなというふうに思っております。こういうこと、ああいうこと、というところまで、もちろんいきませんが、なかなか、その他の意見でも主婦に分かりやすくってというような意見も、実は書いていただいたところが確かあったと思うんですが、一般の方々には議会の活動というのがピンとこないというところもあるでしょうし、PRを皆さんにお世話になって、助けてもいただいておりますけれども、なかなかこの議会のやってることに関心を持ってもらううちゅうのは難しいところがあるなというふうには、もちろん感じておりますので、どのように今一度関心を持っていただく、興味を示していただくっていうところ考えていったらいいかということ引き続き、もちろん課題だというふうに思っておりますので、いろいろまたいいお知恵があったら貸してください。

(質問) 広報に関する部分なんで、副議長にお尋ねしますがその辺はどうお考えですか。

(副議長) 私のほうも、実際広報のことを考えますと、この今の選定に対して、どのようにしていかなきゃいけないかということでございますけど、どうしても今このコロナの状況の中で、どうしても集約された部分というのか、e-モニター、そしてまた、傍聴者の皆さんも、どうしても今、注目する部分っていうものに対して、非常に目が、怒り出すこともありまして、私たちこのコロナのこの状況の中で正副議長として、この今の活動をしていく上では非常に制限がされておる状況の中でございますので、その点は議長と共に、しっかりとした形の方向性というものを進めていかなきゃいけない、残りのあと、来年の次年度の5月まで、しっかりとした対応をしていかなきゃいけないというような思いでございますけども、議長のお考えと私も同じ意見でございますので、その点だけご理解いただきたいと思っております。

(質問) 15番項目の選挙区調査等でさっき議長もおっしゃいましたけど、県民、e-モニターとかで見る限り、県民の意識と県議の方の意識の差が非常に大きいとおっしゃってましたけど、この辺の理由っていうのは議長はどう考えま

すか。

(議長) まだ、おそらく県民の方からすると、改めてのこの議論がまだそれほど表に出てないというか、県民に見えるようなところまで出てないんで、そういうところがあるんじゃないかなというふうには思ってるんですけども、これがまた、これから定数、選挙区の議論を改めて我々が初めて、そしてまた、マスコミの皆さん方がですね、

(質問) 騒ぎ出すと。

(議長) 出していただいたりすれば、もうちょっともっと関心も高かったんだろうなというふうには思わせていただいております。今ちょっとまだそれほど表に出てないことがあるのかなというふうに、私としては捉えています。

(質問) 副議長はどうお考えですか。

(副議長) 私としましては、今、どうしても注目すべき状況の中で e-モニターの皆さんが非常に少ない状況、そして、傍聴者の方、ホームページの閲覧者の方も非常に集中した、防疫っていいですか、そういった方向性が非常に多いものですから、我々といたしましては、できるだけ判断をしなければいけないということでございますから、10項目を選ばせていただいた中でどうしても偏った状況があるかわかりません。それと選挙区の問題に対しても今後しっかりとこの県民の声というよりも、議会の中で議員の先生方としっかりと正副で説明をさせていただいて、良い方向に行けばありがたいなというような気持ちでございますので、今後のご理解をよろしくお願ひしたいと思います。

(質問) 県民がある程度メディア露出とかそういうので関心を持った頃には、既に議会ではある程度、方向決まってしまう時期じゃないですか。つまり、今後その実施に向けて、次の県議選まで約2年ちょっとですけど、その前に当然1年ぐらい前に今の工程でいくと新しい選挙区とその定数でいくっていう形になりますので、それが固まるのが1年ぐらい前でそういうものが露出していくと、もうすでにそれはある程度方向付けされてる中で、県民が初めて関心持つというタイムラグが起きるじゃないですか。その民意とのずれっていうのが、よりこう広がっていくところだとすれば、何らかのやっぱり、手っていうのがあると思うんですけど、その辺はお考えないんですか。

(議長) とにかく、県民の皆さまにももちろんメディアの皆さまにも通してお世

話になるわけですがけれども、県民の皆さまには開かれた形で進めていきたい、知っていただける、できるだけ形で進めていきたいというふうに思っておりますけれども、これから進んでいく中で、今ご指摘いただいたようなことも懸念されないことはないんで、気をつけてはいきたいというふうに思っておりますけれども、議会からそれほどこのことについてPRをし続けるっていう、実際のところそういうこともなかなか叶いませんので、とにかく開かれた形をしっかりと意識して心がけていくということで、また皆さんにもご協力いただきますようによろしくお願いいたします。

○選挙区及び定数に関する在り方調査会について

（質問）今回初めて有識者の調査会作ってやっていますけど、この動きそのものっていうのが、そんなに一般の県民に知れ渡るほどの形じゃなくてあくまでも内部調査的なものなので、その部分と今までのやつっていうのは、県議会の中で特別委員会なり勉強会を作られて、議員の方たちが各地域回られて首長の方とか議員の方と話し合ったりとか、そういう時間的なものもあるし、そこでのメディア露出もあるし、そこでの差が県民が知るところにおいては、前回までのやり方のほうが優れたんじゃないかと思うんですけど、そういうことは考えられないですか。

（議長）そういう観点からでは確かにそのところもあるのかわかりませんが、これから改めて私たちの選挙区、定数を考えていく手法については、先の代表者会議でもご決定をいただいておりますので、私どもとしては、議員の皆さまの代表者会議での総意を持って進んでまいりますので、今、なかなかこの県民の皆さまに分かりづらいので、何らかの分かりやすいような審議する機関をとというような、どう考えてるのかというようなお尋ねだと思うんですけども、そのためにそういう形をとっていくっていうことは今は考えておりません。前回の代表者会議でも、方法についてはどう進んでいくかということはどう、お決めいただいておりますので、それに沿っていくこととなります。

（質問）今、選挙区調査に関しては、代表者会議、この前までのやつでまとまってるところは一応、正副議長案を出すというところで全会派のある程度合意が得られたってことですよね。あと工程表でいくと、この正副議長案というのはいつ出して、そこでまたある程度叩いて、前から議長おっしゃってますけど、議員による勉強会を作るのか、或いはそこは経ないである程度、全協なりで説明してやるのかということがあると思うんですけど、今、固まってる方向性としてはどういう形になるんですか。

(議長) 方向性としては、とにかくまず、正副議長案として、その議論いただくたたき台をいっぺん作ってくれということで代表者会議で決めていただきましたので、慎重にそれを進めていくわけですが、これから各会派、年変わってからでございますけれどももちろん、各会派のご意見も聞かせていただき、またこれまでの経過であるとか、これまで上がってきた案であるとかいろいろなものをこの加味させていただいて、私たちなりに誠実に正副議長案というものを作らせていただければなりませんので、今のところ、ちょっとその先については、いつごろっていうそのタイムスケジュール、もちろん迅速に対応していかなければいけませんけれども、いつまでに正副議長案を作るとか締め示させていただくとか、そしてそのあとの協議の場をどういう形で例えばですけれども、代表者会議ですのか全協でお示しして一応聞いていただくのかとかいろいろな形があると思いますけど、その辺も今後進んでいく中でまたお諮りさせていただきながら進みますということで、代表者会議においてはそういうふうに、そこまですべてになっているんですけども。

(質問) これに関する代表者会議、直近のところでは3回ぐらいあって、草莽さんが提案されてた国調がコロナの関係で出てくるのが遅くなってるんで、来年6月ぐらいに速報値が出て9月ぐらいに確定値だろうと、今のところはそういう見込みとおっしゃってて、これは反映できるのかっていうお話されてましたけど、これについては、ある程度それが出た段階で見比べてみて、あまり、今のある程度、概数とそんなに変わらないだろうという時はそのまま行くだろうし、もしそこが食い違いが出てきたら、それはある程度反映した形で再度協議するみたいな形でよろしいんですか。

(議長) 極端に食い違ってくるようなことがあるようであれば、おっしゃられたようなことになっていくんだろうというふうに思ってますけれども、国調が示される時期が大変遅くなっておりますので、今おっしゃられたような時期になってくるんだろうというふうに捉えておりますけれども、まず、代表者会議でも皆さんにご了解いただいたんですが、市町で積み上げていただいている最新の数字を参考にさせていただいていけば、おそらく国調との乖離というのはそれほど無いでしょうし、乖離の部分で大きく見直さなければいけないような私たち、正副議長案で示させていただくものがそういうふうにはなっていないだろうというふうに、若干の誤差でそれほど、確認はもちろん、結果が出れば確認はその時点でさせていただきますけれどももちろん。ただ結果として、その誤差で大きく案を変えなければいけないようなことになっていくっていうようなことはないだろうというふうに踏んでおります。

(質問) それは新政みえの稲垣代表がそういう主張されて、多分、新政みえさんとしてはそういうお考えなんでしょうけど。じゃあ副議長、自由民主党県議団ですけど、その中でもそれは新政みえさんがおっしゃるように、ある程度あんまり乖離はないだろうという感じに今なってるんですか。

(副議長) なかなか難しい今、表現をしなきゃいけないと思うんですが、我々の会派として自由民主党県議団の会派として対応する、もちろん新政みえさん、そしてまた、各会派の皆さんとしっかりと協議をしなきゃいけないんですが、我々のほうは、副議長、私副議長という立場でリードしていけというようなお話もいただいておりますもんですから、今回、この我々の正副議長の時に議長案をしっかりと提案をさせていただいて、それに対してご了承いただけるような方向性を持っていかなきゃいけないなというふうな思いでございますので、ちょっとその辺のところはまだ我々の会派の中で詰めなきゃいけない状況でございますし、各会派もでございますので、しっかりと強調した形で皆さんにご理解いただけるような正副議長案であってほしいなというふうな思いでございます。

(質問) 回答で言えば議長がさっきおっしゃったような、ある程度あんまり乖離はないだろうというふうなことで、正副議長案を作るときに議長がそういうお考えならば一応、副議長としてもそこにある程度乗っかるということですか。

(副議長) どのような議長の案を出してこられるのか、私もまだ、その点はまだ理解できてませんもんですから、今後、議長としっかりと協議をさせていただいて、今の選挙区に関してはもう長年のもう何年も続いた状況でございますので、我々としては良い方向性を結論を出したいというふうに考えておりますので、まだその点をはっきりした数字も出ておりませんし、議長と話し合いをしていかなきゃいけないなというふうな思いでございます。

(質問) 聞き間違いかもしれないけど、今、どういう議長案が出てこられるかっておっしゃいましたけど、正副議長案をお二人中心で話し合っただけでやられるんじゃないくて、まず議長が議長案を出されて、それをまた副議長も加わって審議するっていうそういうプロセスになるんですか。

(副議長) いや、私のほうも自由民主党県議団の会派もありますし、自民の皆さんも見えますので、こういった政治的なことを申し上げるのは失礼でございますけども、どのような方向性があるのか、やはり各会派とも相談をさせていただいて、決めていかなきゃいけないという思いでございますので、もちろん

正副議長案を提案をさせていただいて、議員の先生方に理解をいただけるような方向性っていうのが一番大事なもんですから。

(質問) いやいや、正副議長案を作るプロセスで、その議長案をもとに副議長がそこで加わってくるんじゃないくて、スタートラインから正副お二人で、ある程度いろんな資料等を集めて含めて作られるということですよね。

(副議長) はい。結構でございます。

(議長) 先ほどのお問いかけの答えを確認させていただきたいと思うんですが、国勢調査の結果を待たずに進めていくということについて、各市町さんの積み上げの数字との乖離の話ですけれども、どういう案を作るかっていうこと以前に、おそらく私たちとしては積み上げた数字と国勢調査の数字と、影響を及ぼすほどの乖離はおそらくないだろうというふうに思っているということございまして、そういう影響を及ぼさないような案を作るとかそういうことじゃなしに、そもそもが影響があるほどの乖離はないだろうというふうに私は考えているということでございますので、そういうふうにとっていただけますか。

(質問) 私もそういうふうにとっています。普通そういうふうにとるんじゃないですか。

(議長) はい。

○令和2年度「みえ現場 de 県議会」～新型コロナウイルスが及ぼす県内経済への影響について～ の開催について

(質問) あと、発表項目の2のほうの1月26日の件ですけど、これで学術・文化のところでゴスペルクラブさん選ばれたのはなぜですか。

(副議長) この学術・文化の中でサニーサイドゴスペルクラブ三重のリーダーということで呼びをさせていただいたのはなぜかというご質問ですね。それでよろしいですか。実際に経済的な影響を受けられるいろんな職種の方があるかと思いますが、実際に個人的な小さなグループでしっかりと努力をしておられる方もたくさんございますので、全員が全員呼べない状況もございまして、これは委員の先生方と相談をさせていただいて、そういった提案がありましたもんですから、製造業、観光・運輸関連、飲食サービス・小売、学術・文化というふうな形の項目の中で、お仕事の中で選ばせていただいた状況でございますので、このサニーサイドゴスペルクラブ三重さんでなければいけない

とかいうような状況で最初はあったわけじゃなくて、皆さんと協議をさせていただいて、この方をお願いをさせていただいたということでございますので、その点だけのご理解をいただきたいと思います。どの関係者の方をお呼びするにしても、もっとたくさんの方をお呼びするのが本来かもわかりませんし、いろんな業者の方に来ていただくということが一番大事なことだと思うんですけども、今こういったコロナのこの状況の中で、実際に4つの項目の関係者の方をお呼びをしたということでございますので、なぜというふうなことはちょっとなかなかお答えできないと思います。

(質問) でも、今のお話をかいつまむと、結局この広聴広報会議でこれお決めになったんですね。要は委員の方がそれぞれのこの参加者の方を中には推薦されて、それで反論もなかったから決まったという形ですね。

(副議長) 記者の言われるとおりでございます。

(質問) だとすれば、昔、県費を使ってまで萬古焼振興ということで、県のマークの入ったその灰皿を作られたりとか、割と萬古焼、四日市市に関しては萬古焼の産業振興について、県議会はそれなりに深く関わってこられているじゃないですか。それからいくと、そういうメンバーが今回は入らなかったっていうのは、そういう指摘もその推薦もなかったからということですか。

(副議長) 実際に四日市といいますと、もちろん北勢は萬古の産地でございますし、四日市は特にそういうふうな今、記者言われるような産業が非常に盛んな状況でございますけども、今回、製造業という形で、非常に製造業、観光・運輸、そして飲食・小売、学術・文化っていうふうな形の職種の方を選ばせていただいたのは、非常に厳しい状況の中で、どの業界もみんな大変な状況だと思うんですが、その中でも製造業っていう中心の中に、これ酒屋さん、丸彦さんとかそういったところも入っていますけども、実際に我々が独自で県のほうの状況も理解しながらお願いをした状況の中で選んでいただいた企業さんでございまして、その点だけは商工会、商工会議所とか、そういったところにも相談をさせていただいて選んでいただいた状況でございますし、ある程度方向性は我々が決めた状況でお願いをしたんですけどね。その辺のところしか今のこの状況では言えませんので、申し上げることはできません。

(質問) なんか答弁漏れというか、よく分からないですけど、あんまりもう時間もあれなんでこれ以上は言わないですけど、だから、なんで萬古焼の関係の方が四日市なら入ってないのかなという素朴な疑問です。

(副議長) そうですね。記者、疑問に思われたんだと思います。四日市だから萬古が非常にあれなんで、我々今回選ばせていただいたのはまた違った状況の中でございますし、萬古の方にも話は通らせていただいたんですけども、商工会、商工会議所といったところで相談をさせていただいて、この今の四日市の方たちを選んでいただいたと。向こうからもお願いをしていただいたということもございますので、タイアップさせていただいて決めさせていただきました。

○Go To キャンペーンへの国の対応について

(質問) あと、この発表項目外ですけど、Go To キャンペーンの関係で、政府のこの一連の1月11日まで全国的に一斉停止っていう形のその打ち出してきた方針と、このコロナ第3波へのその対策について、議長はどういうふうに、所感なんかありますか。

(議長) 今の全国の状況とか、感染が拡大している状況とか、三重県も含めてでございますけれども、今の新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みますと、そうすべき対応であったというふうに捉えております。

(質問) 政党的お立場は違うけど、一応菅政権のやられたことについては了承するというお考えですか。

(議長) 政党といいますか、政党的立場でものはこの場所からは申し上げられませんので、とにかくそのように捉えさせていただいております。年末年始、大変人が動かれますので、このような状況の中ではそうすべき対応であったんだろうというふうに私は捉えさせていただいておりますが。

(質問) 立憲さんとかが言われている、ちょっと遅かったんじゃないかとか、そういうお考えにはならない？

(議長) 遅い早いですか。

(質問) そういうことも含めてです。

(議長) どういうところに私が所属しているかは別としまして、報道の方々が出される世論なんかを見ておられますも、もう少し確かに状況を早く把握して対応されていたほうがなおよろしかったかなというふうには感じさせていただいております。

(質問) 副議長はいかがですか。

(副議長) 議長と同じ意見でございます。

(質問) 同じってというのは、致し方ないけどもうちょっと早い方がよかったかなってということですか。

(副議長) 記者言われるとおりでございますけども、やはり経済も動かさなきゃいけない、コロナも対応していかなくちゃいけない、非常に厳しい政府の対応だというふうに思いますし、やっぱりもう少し早くてもよかったのではないかなというふうに思います。また、この年末年始っていうふうな形の対応だけでいいのかどうか、これはちょっと心配するところではございます。

○首相の来県について

(質問) 今、予定で4日に首相来られるという話になっていて、議長もそれなりの準備はされてると思うんですけど、ここは議長はお出になるんですよね。出迎え等、予定ですけど。

(議長) 予定は、参加させていただく予定でございます。

(質問) 今回副議長は来られないんですか。行かれるんですか。

(副議長) 出席はいたしません。

○新型コロナウイルス関連情報の提供について

(質問) あと、コロナ関連なんですけど、要は毎日1日遅れでコロナウイルス対策本部が発表してて、その情報が議会に、例えば関係常任委員会の委員たちも含めて、遅れて伝わってるっていう感じというか実態があるんですけど、その辺はコロナに関しての感染者数の情報とか、議長はどういうふうに考えて、議長のところには多分早く行っていると思うんですけど、議員全体の中では割と伝わり方が3日遅れであるとか、そういうことがあるんですけど、その辺は連携とかなんかそういうのはお考えですか。

(議長) ちょっと今、発言いただいたことについて、私も把握してないところもあって、できる限り迅速に皆さんのところへ配慮いただいているっていうつもりでございましたので、ちょっとその3日遅れとか、そういうところについて、

もしあるのであれば、ちょっと確認もさせていただいて、またお願いさせていただくべきことがあれば、副議長とも協議、相談して、また事務局にも確認して、お願いさせていただくべきことがあったらさせていただきたいと思いますが。すいません、そんなに遅れてということを確認しなかったんで。

(質問) 私が知ってる限り、コロナ第1波の4、5月ぐらいの話ですけど、例えばその当時、医療関係の常任委員長のところにもまだ連絡が来てなくて、こっちとしては発表があった後にもっとその詳しい情報が聞けるかと思って、医療関係の委員とかに電話してお話伺ったりするじゃないですか。でも、ほとんどその情報が要は来てなくて生で、新聞報道で初めて知るっていう形になってみたいなんで。

(議長) ちょっと改めて確認して、必要なことはまた議会からもお願いしていきたいと思います。

(質問) どうも。

(質問) 他によろしいでしょうか。終わります。ありがとうございました。

(議長) それでは、もう今日が今年最後でございますので、記者クラブの皆さん方には一年間大変お世話になりました、ありがとうございました。県政記者クラブ、第二県政記者クラブの皆さんには良いお年をお迎えいただきますようにお祈りをいたしております。来年もどうかよろしく願いいたします。今年本当に一年ありがとうございました。来年もお願いいたします。

(以 上) 11時32分 終了